鵠沼

久久比奴末

はまゆうと桜貝と
海光るわが故里

第　３３号

１９８６年９月　９日（火）

鵠沼の尼寺さん　　富士　山

鵠沼の回想と鵠沼公民館　　吉田興一

鵠沼を語る会

鵠沼の尼寺さん

富士　　山

私が母と共に鵠沼に住むようになつたのは、大正１１年８月であつた。当時の鵠沼は５千～１万坪に家が一軒という寂しい所であつたが、さすが暑中休暇ともなれば東京の人々は貸別荘（３間位の貸家のこと）を求め、あるいは東屋旅館や中屋に泊つて鵠沼は賑かになつた。いまの皇后陛下も御年２０才のお嬢さんであつて、吉村別荘に住まわれる東久迩宮を訪ねてこられて、町は賑わつてきた。吉村別荘と道路をへだてて向側は一面の細い竹の薮で、その中に鵠沼の尼寺さんと呼ばれる慈教庵があつた。浄土宗である。

私の母は浄土真宗の信者であつたが、阿祢陀如来を信仰することは同一である。私は母に伴われてこの尼さん慈教庵を訪れること何度かあつた。庵主は喜んで私とさし迎えられた。庵主は颯田本真といわれた。下の尼さんに向かいネンショやお茶を持つてこい、ネンショやおしぼりをもつてこい、というふうでネンショの連続であつた。私はネンショとはおかしい名前であるなと思いながらも、その意味が判らなかつた。この慈教庵は大正１２年９月１日の関東大震災でつぶれた。いく年かたつて堀川に再興の尼寺ができた。前の尼寺さんの庵主颯田本真のお名前をとつて、

本真寺と呼ぶのが正式の呼び方である。設立当時は寺の境内は、がらんとした広い空地であり墓一つなかつた。寺でもそれを気にしたか、何宗でもかまわぬ希望の方は来て墓をたてなさい。ただし、日蓮宗だけはおことわりといわれた。他宗を排斥する日蓮のやり方が気に入らないのだらう。私もそうである。鵠沼に住むこと６６年程になるが、ただ一度もすぐ隣りの龍口寺に詣いつたことはない。

ところが最近になつて上記のネンショの意味が判つた。ネンショ即ち年少であり小僧である。庵主がネンショ、ネンショと呼ぶのは、小僧、小僧と呼んでいた事なのだ。意味の判らないことが数十年もたつて、ふと判つてくるとは人間の頭脳とはおかしなものである。

おわり

鵠沼の回想と鵠沼公民館

元館長　吉田興一

私と鵠沼との〃であい〃は、私が小学生だった昭和５年の頃で、当時阿佐ヶ谷に住み、吉祥寺の成蹊学園に通学していた。ある日、父に連れられて、鵠沼の伯父の別荘を訪問した。楽しい一日を終え、百米程の鵠沼海岸駅まで夜道が暗いからと送ってもらった。淋しい松の木立ちをぬって歩いたが、懐中電灯の照らす光の輪が、いっそう淋しさをつのらせ、その光景は今でも妙に瞼にやきついている。現在では想像もつかぬ情景であった。

その後、昭和１５年、当時わが家は北九州の小倉にあり、たまたま春休みに弟と二人で、東京の親類回りをすることになった。鵠沼では伯母をはじめ従兄弟たちに大歓迎されたが、今ではその家はとり壊され、後年わが一家が住むことになったその隣りの家は現在も残っている。さて、鵠沼銀座に連れていってあげると案内されたのが、現在の商店街である。店も大層地味で、静かな通りといった平凡なものであった。『これが郵便局よ』と教わった建物も素朴なものであったし、その反対側の家も樹木の多い広い住宅であった。さらに当時ではハイカラなスポーツ用自転車で、江の島の桟橋まで行った。遊歩通りに出るまでは、極めて平坦で、多分砂地のふみ固まった道であらう。すべるように走った。
遊歩通りの右側は砂丘がつらなり、波打際はかなり遠くに見えた。左側は広々とした松林とか、広壮な別荘があったり、山羊がつながれた緑の空き地すらあった。ゆるやかな勾配のスロープを越すと、いよいよ江の島は近づき、片瀬の川口へと至った。右手の砂浜に乃木大将の銅像があったはずである。ちなみに昭和１２年には、湘南白百合学園は、私立乃木小学校、乃木女学校となっている。

目を転じて引地川では、川口の右が海水浴場で、左岸には波打際へ向け、木の杭が一列に何本か並んでいた。その手前から川の流れは、砂丘地帯へ曲り込み、大きな池になっていた。時たまその水面を〃いな〃がはねたりしていた。現在の公園に渡る橋は、その頃からあった。ただし、砂は風紋を刻み、高く低く砂丘が、ゆるやかに広がっていた。この旅行が終り、帰倉した頃は、鵠沼とは、単に別荘地というだけの印象でいつしか忘れてしまった。

ところが時は移り、昭和１９年思いがけずわが家は、鵠沼海岸６６６

２番地（当時）にあり、夏は避暑客に借す、敷地二百坪の木造家屋に住むことになつた、さきに書いた伯父の別荘の隣りである。敷地の横は小田急が通り銀座通りの商店街はすぐ近く、駅に出るにも至極便利であつた。当時下水がなく台所の流の溝にそつて赤い弁慶蟹をよく見つけた。今は余り強烈な台風は少ないが、昭和２３年頃は大きなアメリカ名前の台風が毎年のように襲ってきた。豪雨による水の流れが小田急の線路に遮ぎられるため、よく床下浸水した。ある時など小犬がいて溺れそうなり畳をあげて救出したような思い出がある。当時この家は線路ぎわに垣根がなく庭の樹木が茂つて粗雑な生垣をなしていた。どうした具合か線路を歩く人が多かつた。銀座通りを真つすぐ北へ向い町並みの切れる辺りから、今の八部運動公園方面は一面に広々とした原っぱで、引地川の土手が長々と堤となり仕切っていた。春はれんげが咲きのどかなもので、摘草など楽しんだものである。昭和２０年代も終る頃、駅の近くの広大なお屋敷が百坪ぐらいに分割され、分譲住宅に変わつていつた。かつて、鵠沼が別荘地に開発された頃は、夏の海水浴はもとより、冬は晴天に恵まれ暖かく、温和な気候が好まれ転地保養にも適し、一区轄千から二千坪で取引されたと聞いている、分譲化は駅の両側でもみられたし別荘地が次第に高級住宅地に変遷していく模様が印象深く記憶されている。それでも庭に池のあるお屋敷も幾つか残っていた。

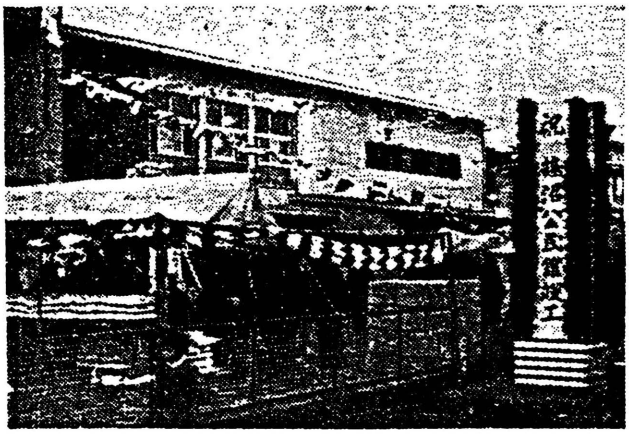
三十年程たった今、昔日の面影を探すのは困難で、別荘地から住宅地へ変る速度は早かった。

さて思いがけず私は、昭和５１年７月に鵠沼公民館長を命ぜられた。そして満６年在職し定年を迎えたのである歴代館長が約一年程で交替していった例からすると最長記録である。かって私は鵠沼を概念的に次のような土地とみていた。それは私が九州の小倉で数学とか化学が好きな中学生の頃である、在学していた小倉中学校では総ての生徒は上級学校へ進んだが、あこがれは旧制高校で多数が合格していった。東京の私立の早稲田、慶応は念頭になかった。ところが鵠沼の従兄弟たちは３人が慶応、一人が立教で全然肌合いが違っていた。すなわち鵠沼は金持ちの子弟の住む別の世界としてとりあっていなかったのである。

陸軍の将官であった父は昭和１８年に他界し、私はまだ旅順工科大学の予科で白線帽の青春を謳歌していた、昭和２０年４月学部に進んだが８月で終戦学校は廃校となった。　たまたま私は病気で休学になり７月３１日に奉天に発った。学友とは音信不通となったまま、２１年７月鵠沼海岸に引き揚げて来たのである。さきに書いたとおり、母は未亡人の心細さから姉のいる家の隣りにすでに落ち着いていた次第である。

夏なので早速海水浴に行った。波間越しに見える江の島は緑濃くしっとりと、荒涼、寂寞の満州になれた目には余りに穏やで優しい感じがした終戦後の筆舌に尽くし難い困窮の体験にくらべまさに感慨無量であった　その昔奏の始皇帝が不老不死の仙薬を求めて除福を東方の蓬莱の国へつかわした故事を想起こするものであった。

昭和２５年に市役所に入る迄は、松下電器の茅ケ崎の蓄電池製造所へ勤めるなど技術者を目ざしていた。長男として一家を支えるため、学業を断念してたうえ朝鮮動乱前の不景気と、数ヶ月健康をそこねたこと、世の中が学歴社会へと転換し始めたことなどが重なり、技術者志望の志を捨て、市役所の試験を受けたのである。これが終生の職業になるとは私としては思いがけなかった。しかも、工業技術界で活躍中の先輩同級生との交流も疎遠となり寂しき極みであつた。



文化の殿堂竣工

鵠沼公民館　盛大な落成式開かる

かねて竣工をいそいでいた鵠沼公民館は、このほど落成、二月十四日その竣工式が、翌十五日祝賀式が、それぞれ盛大に行われた。この公民館は文化の殿鵠沼にふさわしい近代的な施設で、利用範囲もひろく、地元では大喜び。

一階には約三百人収容できる大ホールのほか、談話室、調理室の設備もあり、二階には、相撲室をかねた談話室、卓球式場などにも適当な和室（松・竹・梅の三室があり、多人数の場合は、シキリをぬいて三十数畳の広間としても利用できる）があり、また、四月からは、週刊誌、新聞、ベストセラーなどを備えた図書室も開く予定で、これは、中学・高校生以上のかたの勉強部屋として大いに利用していただくよう、その準備をすすめている。

小田急鵠沼海岸駅下車、徒歩約四分という至極便利な位置にあるこの公民館は、鵠沼の文化センターとして、今後、大いに活用されていくであろう。

写真は竣工した鵠沼公民館

話しをかえ、鵠沼公民館の改築のことに移りましよう。鵠沼公民館は昭和３４年に創立されました。当時としては藤沢文化の先端をゆくような、モダンな文化ホール的施設で地元での後押しと、町内会等での土地の提供が大きかつたのです。庭の芝生は広く中央に人工池を配し、とりどりの樹木が豊富で、梅、桃、桜、つつじと季節の花が美しく、殊に桜は大樹となり道行く人が振り返へる満開の見事さは、春の到来を満喫さ

せてくれました。鵠沼公民館の文化事業の特色は、公民館主催の講座、例えば平安文学とか英会話が一定期間で終了したあと、講師の先生を中心に自立し、自主運営の学習サークルが沢山あることである。若い母親とか、主婦層の各婦人学習、中年の人、高齢のひと、色々な市民による古文、和歌、漢文、俳句、書道、すみ絵、詩、コーラス、楽器演奏８ミリ、写真、謡曲、英、仏、スペインの会話チェス等多種多彩のサークルができていた。設備ではホールの回転率が最も高かった。学習室は十人も入れば満杯になる部屋が２つ。あとは３６帖程の和室とやや広い調理にも使える講座との兼用洋室。創立当時は結婚式を階下で行い披露宴を二階の和室で賑やかにくり拡げるといっためでたい場所でもあった普段は夜間の利用も毎日で、使用限度ぎりぎりまで活用されていたのである。そして昭和５０年代に入り増改築の話しが出はじめ、昭和５４年夏いよいよ改築に着手することになった。長らく親しまれた木造しょうしゃな建物はとり壊され、鉄筋２階建の、延床面積約千七百平方米に全面改装することになったのである。

新しい公民館のあるべき姿とはと、関係職員は一丸となって議論し探究した。まず〃こんなことまで公民館でできるのか〃といった新しい活用面での開発である。人々の目を見張らす設備と、魅力ある講座の展開である。生涯学習が可能な社会教育機関として快適な学習が体験でき、機能的にも不満のないものにしたい。直ちに建設委員会が設置された。議論した内容としては、〃おや、ちょつと入ってみようか〃と人々を誘い込む斬新さと暖かみのある外観がいる。清潔でガラス張りの明るく、広々とした館内が見通せしゃれたデザインとし、旧来からあるお役所的冷たく固苦しい体裁は避けよう。２階とは一部吹き抜けとし開放感を与え、こまごまと廊下があり鼻が壁にぶっかるようでは困る。館内の各部屋の役割と位置を判り易くし、一度入館すれば、すぐ覚えられるようにする。閉ざされた室内空間とオープン空間とを調和させ、学習に疲れた気分の転換に役立たせたい。照明も憩いの場は、間接照明でやわらかな明るさとし、絵画をとり入れ落ち着いたインテリアがいる。身体障害のある方々にも使えなくてはならない。各部屋のドアーには〃押す〃とか〃横に引く〃とか点字標識をつけたい。車椅子で入れるようスロープがいる、学習に対しては、オーディオ関係には防音と音響効果を考慮し、映像利用にはＶＴＲとか、ＯＨＰを利用する。ステージには多彩な照明装置をつけ総合コントロール機能をもたせる。図書館機能を内臓し軽い読み物を揃えたロビーを作り広い庭園の樹木を一望におさめる憩いの場所も欠かせない。学習室には静寂、適温、空調、黒板と照明光源とかの

学習環境、吸音壁面の立体利用など配慮した。窓からの自然光も学習に没頭しやすい雰囲気醸成に利用した。設備機能としては、幼い子供が自由に遊べる部屋、サークルが資料作りに便利な専用コピー室、音楽、絵画、彫刻、人形作り等の芸術、活動室、調理兼ソーイングにも使える部屋、短歌、俳句、の創作、語学その他各種講座にＯＨＰスクリーンを設えた講座室、謡曲、茶道、書道、高齢者にも好まれる和室等々であるそして文化活動の発表会、映画会、演奏会、舞踊等々の会場になるホールは、天井を高くするため半地下とし、フォークダンス、マットを敷いて子供の柔道にも使える多目的なものとした。そのため椅子類はステージの下に格納する。限りなく広がる要求を、一つ一つ実現しょうと欲張ったが、幸に一つの建物に結集できたのが新しい公民館であった。唯一つ失敗したのは、間仕切り移動隔壁が設計上、断面の薄いことに気付くのが遅れ、利用者にご迷惑をおかけしたことである。

建設には予算がいる、設計施工には建築技術が造園設計には隣家との折衝がいる。市の財政建設関係の部局は、教育委員会の要求、建設委員会、業務担当の社会教育課、直接当事者の公民館側から出る将来性をふまえた理論等にも理解を示して下さった。私が最も慎重に気を使ったのは、隣接市民の居住関係でのご迷惑のことであった。工事現場の騒音、振動、ミキサー車とか資材運搬のトラックの運行上での交通安全等で、何度も訪問してご相談しご理解をいただき、そのご寛容には感謝の言葉もない。当時の教育長は丸山一雄氏、総務室長は山田栄氏、社会教育部長湯山学氏、課長、諸節トミエ氏であった。

最後に公民館の施設が整えられても、社会教育の普及と活発化は別問題になる。まず鶴沼の住民の方々に公民館の事業役割りとか利用法を職員は十分ＰＲしなくてはならない。その奉仕精神の熱意と能力が必要となる。一方では、利用する市民がサークル自主活動の輪を広げ両輪相まって、お互いの希望を表明し合い賢明な教示や助言しあう切磋たくまが欠かせないことになる。サークル自主活動の尊重とは、サークル会員が講師の先生を中心に、生涯学習にかける情熱の尊重である。職員が行政効果ばかりに傾って宣伝するょうではいけない。サークル参加者もサロン利用者も図書館利用者も館内を自由に活歩している各年齢層の方々も、学習と同時に地域の福祉と文化振興に、公民館を使っていただければ幸いである。そして市民集会にホールを使っていただく。

終に姿を消し六年になる公民館での年中行事を記しておこう。まず、正月十五日には『新年親子餅つき大会』五月五日の子どもの日は『絵で作る鯉のぼり大会』八月には『盆踊り』秋は『公民館まつり』等である

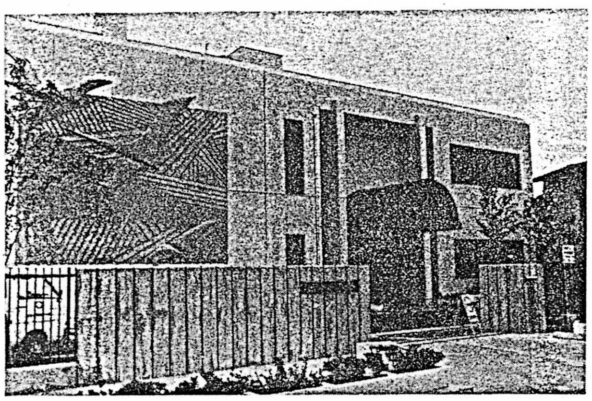
あの木造のホールは、時代ばなれした造作でかってのよき時代を担っていた。市民オーケストラ、湘南コールグルューン、湘南マンドリンなど発表会も多かったし、謡曲、仕舞の会とか、子供絵画教室で満員になるなど故黒崎義介画伯とともに楽しい思い出がいっぱい詰まっていた。

解体を前に昭和５５年５月２５日には、沢山の利用者に回状して〃お別れ会〃を開いたものである。

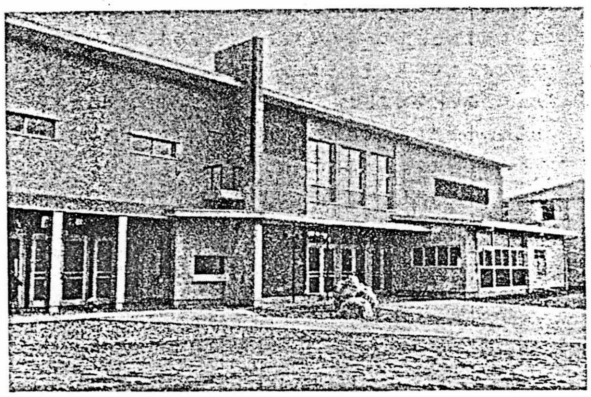
新旧公民館は、鵠沼という伝統的に文化性の高い土地柄を背景に、また地元商店街のバックのもとに、それぞれの時代の新しいセンスを具象化して建てられた、市民の憩いと文化創造の場であった。

改築工事の詳細日程

５４，８，１０	町内会自治会長等地元への改築説明会
８，２８	第１回建設委員会以後５５，６，１１まで５回開催
９，２５	設計業者決定
１０，２４	教育長設計図面承認
１２，１７	市長へ説明し承認
５５，２，２７	公開聴問会
３，２４	仮設公民館（プレハブ建）へ移転
５，２８	工事業者入札決定
６，　３	地元に対し解体、建築工事説明会
６，　５	市議会、改築議決
６，１２	解体開始
６，２５	周辺５０ｍ範囲の井戸水調査
７，２５	周辺への騒音振動測定調査
９，　６	建物前面のレリーフ打合
５６，３，１６	建物完成し引渡完了
３，２２	仮設公民館から新館へ引越
３，２６	内覧会
４，　５	開館式



新・鵠沼公民館正面玄関（昭和56年2月）



旧・鵠沼公民館正面玄関（昭和34年2月）

鵠沼を語る会10周年
記念講演会.

○ 日時　61年10月25日(土).
午後2時～3時30分

○ 会場、鵠沼公民館ホール

○ 参加人数、200名予定.

○ テーマ

私の鵠沼と文学

○ 講師. **作家**

阿部昭先生